

● 今月の新着図書 ●

議会図書室からのお知らせ
R5年8月号



『ザイム真理教』
森永卓郎【著】/三五館シンシャ (2023/6)

「大蔵省(現財務省)の奴隷だった」という自身の実体験をもとに、宗教を乗り越えてカルト教団化する「財務省」の実態をあばき、その教義を守り続けて転落し続ける日本経済&国民生活に警鐘を鳴らす! エコノミスト森永卓郎による警世の書。



『アバターワーク ~ メタバースが生み出す時間、場所、身体から解放された働き方』
(株)往来【著】/エムディエヌコーポレーション (2022/12)

アバターの姿でメタバース内で働き対価を得る、今話題の「アバターワーク」。その実例を紹介しながら、時間・障害・環境等の制約に囚われない、次世代の働き方を探る。



『先読み! IT × ビジネス講座 Chat GPT ~ 対話型AIが生み出す未来』
古川渉一・酒井麻里子【著】/インプレス (2023/4)

「Chat GPT」の可能性・課題について、その分野の第一人者と対話する形式で、わかりやすく解説。利用してみたい方のリアルな「知りたい」に答えてくれる、役立つ一冊。



『堤未果のショック・ドクトリン ~政府のやりたい放題から身を守る方法』
堤未果【著】/幻冬舎 (2023/5)

「ショック・ドクトリン」とは、災害などの恐怖で国民が思考停止している時に、為政者や巨大資本が、どさくさ紛れに過激な政策を推し進める悪魔の手法。巧妙な正体を見抜き、私たちの生命・財産を守る方法を探る。



『少子化対策したら人も街も幸せになったって本当ですか?』
泉房穂・ひろゆき【著】/KADOKAWA (2023/2)

「子ども欲しいけどお金ない…」そんな社会から早く脱出しよう! 子育て世代にうれしい無料化施策で、出生率増、収入増。話題の二人が本音で語る「少子化」のリアル。



『分断と凋落(ちようらく)の日本』
古賀茂明【著】/講談社 (2023/4)

安倍政権がもたらした「分断と凋落」から日本を救う道はあるのか。安倍晋三元首相をテーマにした政治ドキュメンタリー『妖怪の孫』企画プロデューサーで元経産省改革派官僚の著者が世に問う、衝撃の警告書。日本を再生させる処方箋とは…。



『15歳からの社会保障~人生のピンチに備えて知っておこう!』
横山北斗【著】/日本評論社 (2022/11)

日常生活でピンチに見舞われた10人のストーリーを通して、「社会保障制度」をやさしく学ぶ。前橋市出身の著者による「わたし」そして「大切な人」を守るために知っておきたい、生きていくうえでの大切な知識の本。



『北関東の異界 エスニック国道354号線 ~絶品メシとリアル日本』
室橋裕和【著】/新潮社 (2023/3)

高崎市から茨城県まで北関東を横断する国道354号線、通称「エスニック街道」は異国飯の本場!!急速な「移民社会」化が進む日本の縮図とも言える道を旅してみる。



『くもをさがす』
西加奈子【著】/河出書房新社 (2023/4)

コロナ禍の最中、滞在先のカナダで「がん」を宣告された著者が、発覚から寛解までの約8ヶ月間を克明に描いた初ノンフィクション作品。切なく、時に可笑しい、たったひとりの「あなた」に向けて綴られた、心揺さぶられる話題の傑作。

トピックス 「リトリート・温泉文化」に関する書籍（新刊）



1. 『心身と地域を元気にする
ウェルネスツーリズム』
関口陽一【著】/ 金融財政事情研究会
(2022/12)

「ウェルネスツーリズム」への官民の参画が始まっている。癒し効果が人、社会、経済を豊かにする、スマートでエコな業際システムとは？その全体像を解き明かす。国内外の保養地の成功事例、関連施策を紹介する。

3. 『ウェルネスツーリズムによる地方創
生 ~健康寿命を目指して「お散歩で日本を
元気にする」』
西村典芳【著】/カナリアコミュニケーションズ
(2022/9)

「ウェルネスツーリズム」の様々な取組みの検証結果を紹介。健康を増進させることがビジネスを創造し、地域活性化にもつながることを「お散歩」など身近な事例から考察する。

2. 『Discover Japan
~2022年10月号 旅でととのう。』
ディスカバージャパン
(2022/9)

「ととのえる」をキーワードに、日本における「ウェルネスツーリズム」の可能性・魅力を集集。いま訪れるべき「ウェルネスツーリズム」の旅先を美しい写真とともに紹介。単なる「リフレッシュ」から、地域文化を通して「心身をととのえる旅」へと誘う。

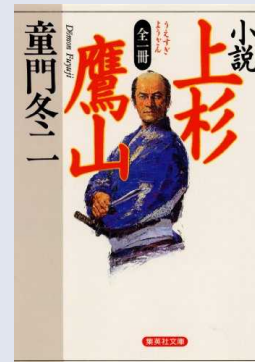
4. 『女ひとり温泉をサイコーにする
53の方法』
永井千春【著】/幻冬舎
(2020/11)

訪れた温泉は約500湯。ヒマさえあれば女ひとり温泉を巡りまくっている「温泉オタク会社員」による温泉偏愛エッセイ。旅館の見つけ方、旅の計画、押し温泉地で過ごす方法など、女ひとり温泉旅行を楽しむためのコツ、視点が参考になる1冊！

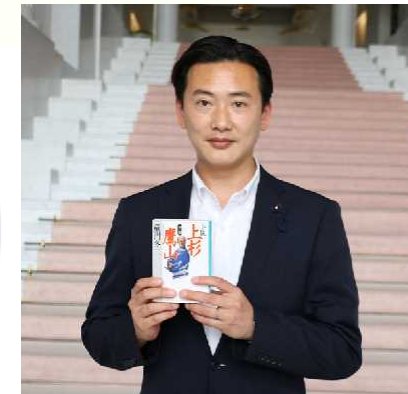
図書広報委員がおすすめする一冊

👍 R5年度新たな10名の図書広報委員が毎月おすすめします！

『小説 上杉鷹山』



著者：童門冬二 / 集英社 (2015年)



紹介者：清水 大樹 委員

今回、おすすめさせて頂く1冊は童門冬二氏の「小説・上杉鷹山」です。山形県の米沢藩主・上杉鷹山（藩主の時は上杉治憲）は、江戸時代に藩の財政を立て直して財政難に陥っていた藩を救った名君として有名です。鷹山は10歳で上杉家に養子入り、16歳で米沢藩主となり、財政改革に踏み切っていきます。若い藩主と前藩主側近たちとの争いも非常に読み応えがありますが、私としては、鷹山が初めて米沢藩に足を踏み入れた際に、藩の状況に絶望しながらも、灰皿の火種を見ながら、「自身の情熱が消えない限り、改革の火は消えない、一人一人の心にその火を灯していこう」と決意を新たにするシーンに感動を覚えます。すべての人におすすめの1冊です。

📌 次号では、水野 喜徳 委員におすすめしていただきます！